

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第33回会合 発言録

2023年4月17日

【加藤】 時間になりましたので、そろそろ進めさせていただきたいと思います。今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

山崎さん、議題を下にスクロールしていただけますか。お集まりになった時点で政府関係の方、それから、MAGからの御報告というのをさせていただくという前提で会議は進めていきたいと思います。

それで、宿題の振り返り、宿題の進捗状況ということで、これは前回のTodo確認のこの今見せていただいている12項目、これについて、まず、いらっしゃる中で確認したいと思いますが、これが宿題ということで3項目あったと思います。

1つ目、4月14日のイベントということで、これは私も呼びいただいて、ここにいらっしゃる何人かの方々、前村さん、高松さんもスピーカーとして入られて、イベントをやっていただきました。恐らく、今も参加の方の中で何人か聞かれた方もいらっしゃると思います。

京都コンピュータ学院と立石さんのグループで主催をしていただいて、結構盛りだくさんで、例によって前村さんのほうから、IGFとは何かという詳しい説明をいただいて、前村さん、もし感想あればいただきたいと思うんですけども、あのパターンを今後もうまく続けていくと、IGFの啓蒙活動としては大変面白いパターンなんじゃないかなというふうに思います。

過去にIGFに参加されていた小畑さんも久しぶりに御登場されましたけれども、皆さんがそれぞれの立場で、IGFとはどういうものであるということコメントをいただいて、最初に村井先生からビデオメッセージで、ぜひIGF京都に皆さん参加してもらいたいという強いメッセージをいただいたという、そういう会議でございました。

参加された前村さんとか高松さん、何かございますか。

【前村】 前村です。加藤さん、ありがとうございます。14日、私は最初に、IGFとは何かというのは、これはIGF2022の報告会でやったスライドを少しだけ手直しをして、基本的には同じことをしゃべったということなんですけど、ちょっと重過ぎるかなとも思っているんですよ。あそこまでこう力入れて、重量級なというか、何か私のイメージから申したんで、もう少し軽めにしてもよかったのかなというふうにも思うんですけども、一応IGFってどういうもんなんですかねというふうなことは御説明したつもりです。

それで、ほかの方々から、とても魅力的にIGFというのは楽しそうだというふうに思っただけのようなセッションとか御発表が数多くあったんで、全体として、なるほどこういうことなのかなというふうなイメージは取っていただけたんじゃないのかなというふうに思います。

それで、村井さんの最初の御挨拶もとても、いつもながら、すごく鼓舞されるような内容でとってもよかったんじゃないのかなというふうに思います。

ぜひ、田中恵子さんいらっしゃっていますので、田中さんから一言何か感想.....。

【加藤】　そうですね。すみません、見落として.....。

【前村】　いただけるといいかもしれないなと思ったんですけど、すみません、むちゃ振りみたいになっちゃって.....。

【加藤】　いや、ぜひぜひ、田中さんがもう全部アレンジして主催していただいて、いいパターンが何かできたのかなと思いますので、田中さん、お願いいたします、よろしければ。苦労話でも何でも結構です。

【田中】　ありがとうございます。このたびはこのような機会をいただきまして、国際委員会、京都情報大学院大学、JUSA様、それからJAIPA様、御一緒させていただけて、このような会を開催できて本当にありがとうございます。ひとえに御登壇いただいた皆様、そして立石先生がこのようなプログラムをつくっていただいて、非常に充実した内容のフォーラムになったのではないかなと思います。

アンケートの取りまとめを、回収率はちょっと低いんですけども、約20名ぐらいの方からアンケート回答をいただきまして、おおむね1から5までの星評価で4.6の平均をいただいております。多分参加された方、結構真面目な方が多かったんじゃないかなという、臆測なんですけれども、なので、何かその重い話とかも、特に苦になるような内容は一つもなかったのではないかなと思います。

【加藤】　ありがとうございます。

【田中】　ちょっと力を入れるところがあるとしますと、やっぱり若手の参加者はごく一部だったというふうに思われますので、青年、それから、より若い人たちというのをこれからもっと増やせるような活動に協力できればと思っておりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

【前村】　ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございました。ああいう企画をぜひ、繰り返しやっていただくなり、もっと広く呼びかけていただく、いいパターンができたのかなと。前村さん、堅いとおつ

しゃいましたけど、最初の村井先生のメッセージ、前村さんの全体説明、その後みんなそれぞれの立場で、写真だとか、もう本当に思いつく、軽めで、だけど非常に皆さんに興味があるような発言をされて、非常に大きなお祭りを説明するにはなかなかいいパターンだったんじゃないかなというふうに思います。

高松さんも発言いただきたいんですが、高松さん、それから浜田さんも何か、突然むちゃ振りでコメントを求められたりしたんですけど、何か御感想とかございますか。

【高松】 高松です。すみません。もしよろしければ一言。

【加藤】 お願いします。

【高松】 最初、その内容が皆さん重過ぎるのかなとか難し過ぎるのかなという辺りを少し心配していたんですけど、今、田中さんからのアップデートで、そんなこともアンケート上はなかったというのを聞いて改めて、参加したその若い方々、もしかしたら初めに大人の方も含んでたのかもしれないんですけど、非常に意識高い方があのイベントに多く参加されたんだなというところに、ちょっと驚きと、よかったなと思い、イベントを企画してくださったところに非常に感謝しております。

今後、似たようなイベントをするときというのは、どのぐらい、ある意味意識高い系の人たちの集まりなのかといったところは、多少調整しながら話す内容を気をつけていかなければいけないところはあるのかなと思うんですけども、まずは初めてのこういった機会という意味で、14日のイベントは非常に有効だったのかなというふうに、皆さんの話を聞いて思いました。ありがとうございます。私も貴重な機会で勉強になります。

【加藤】 ありがとうございます。浜田さん、何かございますか？

【浜田】 私も急に指名されてちょっと、いきなり何を話そうかなとも考えたりもしたんですが、聴衆の皆さんの大体どういった層が参加しているかというのは全然予備知識がなかったの、割と若い人たちが集まっているということじゃないかなと思って、若い人たちに向けたメッセージという感じで話してみましたけども、あんな感じでよかったんじゃないかな。

それから、非常にイベント全体としてコンパクトに、非常にIGFのエッセンスがよくまとまって、本当に皆さん、御準備からお疲れさまでした。非常にいいイベントになったというふうに思います。企画された、また、オーガナイズされた皆さん、どうも本当にありがとうございました。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方どなたか、御質問とかコメントとかありますか。

もしなければ繰り返しになりますけれども、IGFを本当にこれまで御存じない方、ユース

の方々等に説明する、何かパターンが一つできたのかなというふうに思っていますので、自分たちの近くでもそういう説明をしてもらいたいということであれば、今、今回は出ていらっしゃらないですけれども、このコンピュータ学院の教授でいらっしゃる立石先生等、皆さん、参加できる、空いている人が参加するという形で、いい催しができるのかなと思いますので、ぜひそういう機会を同じようにつくっていただければと思います。ということで、ありがとうございました。

先ほどの宿題リストの2番目として、ちょっと戻っていただくと、後ろのほうにスクロールしていただいた12項目だったですね。もう一つ宿題の中で、NRIのコーディネーショングループとの関係で、前のCGとの関係を一度議論したほうがいいというのは、実は前村さんと河村先生ともやり取りを始めているんですけれども、ちょっと活発化チーム、プロパーの問題ではないので、時間かけて今後検討していくという感じになっているように思います。前村さん、それでよろしいですかね。

【前村】 はい、そういう感じだと思います。

【加藤】 特に今NRIとして、今、河内さん、それから山崎さんと私が一応リエゾンの参加させていただいているんですが、そういう機能としては継続するけれども、大きな枠組みを今後どうしていくかというのは、もう少しその活発化チームとか、次に出てくるタスクフォースとか、そういう全体の中で日本の動きを今後検討していくという中でこういう議論していったらどうかということがあると思いますので、取りあえずはこれで何か変わるとか、活発化チームとして問題を取り上げなきゃいけないということではないというのが、現在のところの状況です。

それで、3つ目なんですけれども、この宿題の3つ目で、今年の日本IGFをどうするかという話ですけれども、これは前回、ボランティアを募集して、今後のスケジュールとかなるべくたたき台をつくって方向性を今日の会議でお出しするというので、これはちょっと別の項目として、今日のアジェンダアイテムにしたいと思います。

先週金曜日、ちょっとぎりぎりになって大変恐縮だったんですが、私がボランティアの方々を代表して現状、取りまとめを書かせていただきましたので、後でそれをベースに皆さんで御検討いただきたいというふうに思っています。

ということで、ちょっとアジェンダにもう一度戻って、先ほどの順番でいきますと、次、2023年のホスト、政府からの御報告ということで、飯田様でしょうか。ごめんなさい。高松さん、何か手を挙げていただいています。

【高松】 すみません。さっきのTodoのところのNRIの分のというところでちょっと欠席していた前々回と前回の議事録のほうを拝見していたんですけれども、今、加藤さんからのアップデートを聞くに、検討自体は、活発化チーム、NRIの今後については、特にIGF2023の前に整理をしようとかそういったのは考えないという理解でよろしいでしょう

か。

ちょっと気になっていたのが、IGCJのメーリングリストのほうで、この活発化チームのメンバーというかメーリングリストに入っている方でお受け取りになっている方も結構いらっしゃるんじゃないかなというふうに思ったんですけども、ちょっとその件が話題になっているような気がしていたので.....。

【加藤】 そうですか。すみません。僕、ちょっとそれを見逃していたんですけども、もしよろしければ、どんなことか伺うか、別途でもよければ別途伺いますけれども。

【高松】 一旦、ちょっと別途共有する形に。今、ほかの議題が今日いっぱいありますので。

【加藤】 そうですね。活発化チーム、プロパーでなければ、別途必要に応じて、また次回までにメーリングリストでも流して、さらにこの、前回宿題いただいた上村、前村、加藤でもう1回、次回、御報告するという形でもいいと思いますけれども。

【高松】 一旦ちょっとほかの議題をして、もし時間が余ればというところかなとも思いますので。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

じゃあ、ちょっと戻って、政府の御準備状況について御報告いただける方、今いらっしゃいますでしょうかね。今日は総務省の方、お忙しいのか、あまりお名前を.....。

【山崎】 飯田さんの部署の方はまだどなたもお入りになられてないようです。

【加藤】 そうですよ。じゃあ、もしおいでになったらということで、次に行かせていただいて、それから次、MAGの御報告ということで、河内さんも30分ほど遅れると先ほどチャットに書き込みいただいているので、順番からいって、次、IGFタスクフォースの報告というのを、これ、前村さんをお願いしてよろしいですか。

【前村】 私のほうからさせていただきます。何から話そうかなということなんですけど、まずは、ちょっと前回、前々回と顔を出せなくて、活発化チームのほう、大変失礼いたしました。ちょっといろんなものが重なってありました。

それでタスクフォースなんですけども、今やっているのは、4月の第1週、もう既に第3週ということなんですけども、第1週にワークショップの提案の受付が始まりましたということで、これ、5月19日までになりますと。そうすると、5月19日までに国内からの提案活動を少し盛り上げていくというのか、国内からできるだけ、ちょっとでもやりたいなと思った方々がそういう提案ができるようにというのをしていかなきゃいけないと思うんですよ。なので、それに向けてちょっと作戦を練っているところです。

それで一つは、タスクフォースとしてどういうふうなことが、タスクフォースの構成員の中から検討して提案ができるのかというふうなネタ出しというのをやるということと、もう一つは、タスクフォースに直接関与なさってない方々から提案をしていただくのに、それを何かアシストというのか支援する方法というのはいかなにかというふうなことを考えているんです。

それで、一つは、5月19日ということなんで、連休明けたらあと2週間というふうな感じなんですけど、その間に提案を出してしまえるように、ワークショップの提案を出したことがある人たちが、こんなものなんですよというふうな提案書き方講座みたいな、そういうふうな気軽なというのか、気軽でかつ役に立つようなものというのを狙っているんですけども、そういうふうなことにに関して準備をしているということで、こちらのほうもあんまり重厚にやると動かなくなるということで、できるだけ軽くオンラインで夕方集まっていたらいい、オンラインで集まっていたらいいというような感じでやれるのかなということまで準備を進めていますと。

もう一つは、タスクフォース自体、設立発起5団体、JAIPA、IAJapan、WIDEプロジェクト、活発化チーム、JPNICということなんですけども、それ以外の方々に入会していただくような手はずを進めているというふうなところで、これもちょっと、急いでやっていかないと、どんどんどんどんタスクフォースとして一緒に活動するということが少なくなっていくというふうなこともありますので進めています。というぐらいが、タスクフォースで今、進んでいることです。

それで、タスクフォースだからというのと活発化チームだからと、わざわざ分けて別のことをやるというの何か、変というのか、協力できるところはぜひともさせていただきたいというふうに思いながら、どういうふうな形で協力しながら進めるのがいいのかというのは常に思案しているところですし、加藤さんともそういうふうな話をよくして相談しているところだと。

以上で日本IGFタスクフォースの現況の御報告ということだと思います。

以上です。

【加藤】 どうも前村さん、ありがとうございました。御承知のとおり、今年のセッション募集が5月19日までということで正式に発表になって、タスクフォースのほうでは、中で、そういう検討のチームをつくって、何人かの方々が中心になって、具体的にこんなセッションがあるといいというのを、ブレインストーミングをしていただいて今リストアップして、もうそれが形になって出てくるということだと思います。

そういう意味で、それなりにパスが出るんじゃないかなという印象を私も持っています。特にIGFのことをよく御存じとか技術的なバックグラウンドをお持ちの方々がそういうことを考えていらっしゃるということで、同じように、活発化チームでもぜひそういうことを

皆さんに呼びかけていただくことも含めて考えていただいて、この活発化チームの中でも結構ですし、今、前村さん言われた、具体的にそういう案をどうやってセッションの提案書にするかって、かなりテクニカルな部分もあるので、そういう情報ももらいながら、ぜひ協働しながら進めていくというのがいいのかなというふうに思います。

何かタスクフォースの動きに関して御質問等ございますでしょうか。

もしなければ、次に進みたいと思います。次、項目として、IGF2023の広報ということ、活発化チームとしてというのがありますけれども、これ、先ほどのタスクフォースのほうでも5団体以外にいろいろ声をかけていって準備中であるということですが、前回の会議でも、今度の4月14日に、ここにいらっしゃる田中さんが中心になって、立石さんほか取りまとめていただいた会議、IGFの会議等、こういう機会をもっともつつくっていただくというのが一番いいのかなというふうに思います。

そういう意味で、何かそういうものがほかにも計画されているというような動きも聞いていますので、もしそういうのが出てきたら改めて発表をするというふうにしたしたいと思います。それで当然、同じように広報活動をやっていく、活発化チームのメンバーは皆さん、そういうバックグラウンドをお持ちなので、声をかけていただく場として利用していただければいいのかなというふうに思います。

何かこの件について、山崎さん、広報活動ということで特に今ありますか。

【山崎】 特に、進んでいるものは今のところないと思います。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 ただ、いろんな方に、14日に開催されたオリエンテーションフォーラムみたいなことは継続的にやっていかなきゃいけないというふうには思います。

【加藤】 オリエンテーションフォーラム、もし御興味があれば……。田中さん、あれってアーカイブされるんですよね。

【田中】 JUSA様のほうで配信のほう御担当いただきまして、Zoomミーティングのデータを今後、どこかしらの主催のアカウントからYouTubeに上げるなどしたいと思っております。

【加藤】 そうですね。時間があれば、1時間30分が実は1時間50分ぐらいになって、私もそのかなりの責任者なんですけれども、だけど、いろんな方が出られていて、飛ばし読みじゃないですけど、見ていただくと結構いろんな情報が詰まっているので、広報という意味では、あれをうまく活用していただくといいのかなというふうに思います。そういう意味で、ぜひ田中さん、フォローアップとしてそういうマテリアルがアベイラブルになるようお願いしたいと思います。

【田中】 一応、まだちょっと検討状況なんですけれども、京都情報大学院大学のほうで動画のアップロードを、主催のロゴ、皆様分のロゴを入れてできればということで、今、所属と相談しているところでございます。

【加藤】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

同じようなことをまだほかにも企画されているという話はちらっと相談を受けたりしていますので、また何かあればその都度、この中にも、活発化チームにも御相談させていただきたいと思います。

ということで、NRIとしての連絡先というよりか、先ほど進捗なしって書いていただいたのは、先ほどの河村先生と前村さんと私の話ということで、活発化チームとして何かすぐアクションを取るということではないんですが、ちょっとこの機会を利用してNRIの状況を申し上げますと、前回、NRIのコールがあったのが3月28日でした。それで、この3月28日の会議でNRIとして、前回の活発化チームでも御報告したとおり、メインセッションとしてNRIのセッションをやるということと、さらに、3つのコラボレーションセッションというのをやると。いずれも90分ずつやるということで、枠取りはガチッとやってあるんですけれども、その後、NRIとして、8つの大きなテーマが今回あるということもあって、どこをNRIとして取り上げようかという、そういう動きになっています。

NRIのコラボレーションセッションが、一般の、例えばワークショップのセッション募集のように、何か特定のグループがその議論をするというよりは、共通のテーマ、基本的には8つのテーマに沿ったところを、NRIのいろんな人たちがいろんな立場で、だけどNRIという観点で、要するにグローバルな観点でコメントをする、そういう場にしようという動きになりました。それで、今いろいろなNRIの核のメンバーが、そのうちどれを採用しようかというやり取りをしているところで、その意見募集が今、ちょうど終了したという段階です。

いずれにしても、8つのテーマはどれも日本にも興味ある内容だと思いますので、次、その様子が見えてきたら御報告をして、場合によっては、そのセッション、メインセッションプラス3つですから4つのセッションに日本からもスピーカーが入れると。だけど、日本が主導してセッションをやるとかそういう形でないという方向になりましたので、状況を御報告して、そういうならぜひ日本から参加したいという、そういうふうに今後動いていただければいいのかなというふうに思っています。

山崎さん、何か追加コメントございますか。私の理解は今申し上げたようなことなんですけれども。

【山崎】 いや、特に追加することはございません。

【加藤】 ありがとうございます。基本的には、1つのメインテーマ、大きなテーマと8

つのサブテーマの中から、NRIとしてテーマをつくって、NRIに参加している各国からNRIという全体のコラボレーションという観点からセッションを行うと、そういう立てつけになると思います。

ということで、御質問ございますでしょうか。もし御質問がなければ次に移りたいと思いますが、今後のスケジュールの確認ということで、これは先ほど私が宿題の御報告をした、秋の日本国内事前会合をどうするかという、この辺の話につながりますので、先ほど途中まで申し上げましたが、そのことについて、ここでちょっと御検討いただきたいと思っています。

これ、出していただいたんですね。ありがとうございます。前回、活発化チームの会合で、IGF2023会議をやる方向で検討したいと。ついては、また、ボランティアをぜひお願いしたいということと、実際にボランティアとして手を挙げた中で、できるだけいろいろ具体的な案を検討した上で、今日、この4月17日の活発化チームにおいて方向性を出していただくというのが前回の決定だったと思います。

ちょっとこのメモに沿って読み上げますが、後ろのほうに書いてありますけれども、このアイデアは、堀田さん、高松さん、前村さん、山崎さん、それと私の5人が今、ボランティアということで手を挙げていただいたので、その5人で協議してまとめた結果でございます。

大きなポイントが一番最初のところにありますけれども、今年度は10月の京都会議が控えている。京都会議がある、その直前の日本会議であるということで、大変重要な時期で、会議自身はぜひ積極的に行いたい。今までやってきたのを今年やめるということはないと。ただ、会議の立てつけに関して、IGFの京都会議があるということで、既にいろんな方々がセッションに応募したり、もう選定されている方も何組もいらっしゃるんじゃないかと思うんですけども、そういうこともあって、京都会議に対して、日本IGFとしてどうやっていこうかという、そういうことに考えを集中したいと。

それで、本来日本として独自のNRIとしてどんどんどんどん、日本IGFの会議をやるんだという、そういう考えではなくて、今年はその京都会議を見据えたものとして、テーマもそのことに集中するのがいいんじゃないかというのが、5人の意見でありました。その前提で、プログラムの考え方等をまとめております。

まず、開催の時期ですけれども、これは前回の活発化チームの会合でもそういうお話だったと思いますが、基本的には9月上旬、第一、二週の辺りで、夏休み明けとか、いろいろなほかのスケジュールとの調整をした上で、どうしても9月第一、二週が難しければ8月下旬ということもあり得るかなということで、これはなるべく早めに決めるようにしたいと思います。当然、この活発化チームの皆様にも御意見を伺うということになると思います。今の段階でももちろん御意見いただければというふうに思います。

それから、会期としては基本的には昨年と同様なイメージで2日間と。「2~3」と書きましたが、数が、ひよっとすると全体4件プラスそれ以外の何かセッションというか、オープニングのセッションとか、そういうことではなくてももう少し増える可能性もあるので、例えば5つ、今年京都で日本初のセッションが行われて、その予行演習的なことを5つともやりたいということになれば、日によっては3つやるというようなこともあるかなということが検討されました。

昨年のように、Day 0で興味深いセッションをやるかどうかというのは、これは継続検討ということにさせていただきたいと思います。去年のようなことをまた、もう少し深掘りをしながらやるとか、いろいろそういうことも御意見をいただければと思います。

形式としては、これも昨年同様、現地参加とリモート参加のハイブリッドと。主催も、特に今年変えることもなく活発化チームということでもいいんじゃないかということです。

それから、言語として英語をもっと使ってみれないかということも昨年、試みたんですが、今年は準備の時間の問題もあり、日本初のセッションを主にここでやるということもあって、日本語ベースでまずはいいんじゃないかということでございます。

それから、手話通訳をやったほうがいいんじゃないかとか、スクリプトの表示をやったほうがいいんじゃないかということも、昨年のフィードバックとして御意見いただいたりしたんですが、これについては技術的な問題もあって、今年には行わないということでお許しいただきたいというふうに思っています。

一番のポイントとして、プログラムの考え方なんですけれども、原則として、今度10月に行われる京都会議で取り上げられるセッションの事前披露というか、同じようなことを皆さんに知っていただいて、そんな面白いことやるならぜひ京都にも行きたいということができるよう、そういうセッションになるといいのかなと。したがって、例年のように、新たにセッションを一から募集し直すと、それを選定するという手続をしないということでもいいんじゃないかというふうに思います。

それから、プログラム全体の構成と、セッションの採否、この辺はさらに検討しますが、基本的には、もし京都で、例えば日本から4件採用されたということであれば、もうその4件を、皆さんスピーカーのお時間の都合を考えながら2日間に配分するというようなことになりまして、もしその採用されたセッション数が少ない場合は、セッションに、公募に応募したような中から、準備もある程度できていると思いますので、そういう方にやっていただくということでお声がけをします。

これは、先ほど前村様からもお話があったタスクフォースからも幾つか上がってくるだろうという予感もしておりますし、こういう形にすれば、少なくとも4つかそれ以上、全体としてセッション数になる可能性はかなり高いんじゃないかなというふうに思います。逆に、セッション数が多過ぎる場合は、イベントをちょっと、1日3件にするとか会期を延

ばすとか、その辺は臨機応変に対応するという事で、またその時点で御相談したいということでございます。

それともう一つ、京都の直前だということ、京都会議の準備状況や何かがどうなっているとか、京都会議で日本勢や皆さんがどんなことをやるというようなこと、それから、京都会議で議論される一つの大きなテーマ並びに8つのサブテーマについて、できる範囲でいろいろと解説なり紹介をするようなセッションも検討したらどうかということが挙がっておりまして、これはどんな形でも何かやれるのかなというふうに私は思います。

ということで、今、準備委員会という名前をここに書かせていただいています、さっき申し上げたボランティアとして手を挙げていただいた、この5人で当面進めさせていただきたいと思います。もちろんボランティアですから、追加で参加していただく方がいれば大歓迎ですけれども、当面はこの5人で進めさせていただく形でやれるかなということでございます。

ただ、イベントの当日、いつも受付から始まっていろいろ、特に会場での御支援いただく必要がある、それは例年、何を言わなくても来ていただく方、お手伝いしていただく方もいるので、これは心配はないんですが、当日については、またぜひ追加にボランティアをお願いしたいというふうに思っています。

今のこの5人で議論したことは以上ですが、内容について御質問とか御意見とか御批判とか、あればぜひお願いしたいと思います。前村さん、高松さん、山崎さん、私が全部しゃべっちゃって大変恐縮なんです、ぜひお一人ずつ、何かコメントいただくことがあればお願いしたいと思います。

【前村】 それでは、前村です。加藤さん、ありがとうございます。一通り御説明していただいたと思います。IGF2023直前に向けたというところに集中して、ライトウエートにやるというのが旨だというふうに私はこのプランを解しておりまして、こんな感じでやるのはいいんじゃないのかなと。最初はできるだけきれいなマルチステークホルダーリズムで、IGFの原則にのっとってということをやってもみたんですけども、そういったことを長い目で見ると、国内のIGF活動としてやっていくというのは重要だと思うんですけども、もう今年に関しては京都向けというふうな集中でいいんじゃないかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さんか高松さん、いかがですか。

【高松】 高松のほうから、よろしいでしょうか。

【加藤】 お願いいたします、高松さん。

【高松】 ありがとうございます。堀田さんともにお声がけいただいて、今回こちらの

検討に関わらせていただいているんですけども、今、前村さんや加藤さんもおっしゃったとおり、イベント自体をつくり上げるプロセスをいかに頑張るかということよりも、今回は時期が時期ですので、今回のIGF2023のテーマとか、それに関連した、国内で盛り上がっていくための基礎知識みたいなところをもっと共有していく会にするということの方が重要なんじゃないかなというふうに改めて思っただけで、今回のこの提案になってきていると思うので、ぜひその辺りにまず御意見がありましたら、参加者の皆さんからぜひ御意見をイベントに対していただきたいなというふうに思っています。

ちょっと別のところで、IGF2023タスクフォース、こちらのほうからもし何かあればというところが、セッション自体もですし、伝えたいメッセージみたいなところがあればというところなんですけど、そちらは、加藤さんなのか前村さんなのか、タスクフォース側のほうにもぜひお使いいただいて、何かあればお早めに提案をいただけるようにという流れで、検討のほうを進められたらなというふうに思っています。

あと、最後、運営の話が下のほうに一、二行ぐらいで書いてあったと思うんですけど、このボランティアチームのところ、その実際の当日の運営の辺りは、実現に向けての詳しいところ、山崎さんあたりしか実は知らないんじゃないかというふうに思っておりまして、いざとなったときには、木村さん、今回御参加いただいていますけれども、ちょっとまた御協力いただくような形になるんじゃないかなと思っております。というので、引き続きよろしくお願いします。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さん、いかがですか。何か付け加えていただくこととかがあれば。

【山崎】 特にはないですね。細かいところではあるかもしれませんが、大筋はこうするのがいいんじゃないかというふうに考えています。もちろん、参加したいという方がいらっしゃったら、ぜひ御参加いただければと思います。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。特に運営のところ、サポートを頼むという強いメッセージをお聞かせいただきましてありがとうございます。

高松さんの今の御指摘の2点目、タスクフォースとの連携というのは、もう前村さんは当然、言わずもがなでやっていただくとお思いますけれども、タスクフォースのほうから出てきたセッション等も、ここでさらに、ある意味じゃ、事前にもんでいただくみたいな、そんな感じになるといいなというふうに思います。

前村さん、それはそうなりますよね、きっと。

【前村】 そんな感じでやっていければなと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

もしほかに御質問ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【山崎】 岸上様から手が挙がっていますが。

【加藤】 すみません、気がつかなくて。岸上さん、お願いいたします。

【岸上】 どうも御沙汰しております。W3Cのって言っていていいかもしれないけど、岸上です。私、ずっと、最初の頃は入っていたんですけども、ちょっと途中、W3Cのごたごたがありまして抜けてたんですが、今回、IGF、いよいよということで、今日参加して、その事前会合のことはあまりよく分かってなかったんですけど、このセッションというものの選び方というのはどういう形で決めていくのかなというのがちょっと気になりました。先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、やっぱりマルチステークホルダーというのがIGFのベースになっていると思うので、何かその辺を反映しない形で取りあえずやるというような発言もあった気がして、そうすると、この事前発表会合というものの意味づけといいますか、それはセッションによると思うんですけども、どうなるのかなというのを素朴な疑問として思ったんですが、その辺っていかがでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。前村さん、私から説明、お答えしてよろしいですか。

【前村】 お願いします。

【加藤】 すみません。御質問ありがとうございます。私の最初の説明がちょっと舌足らずだったんだと思います。

今回の趣旨は、5月19日までに日本からセッションの応募というのがいろいろ出てくると思うんですが、それをグローバルのIGFに提案して、グローバルのIGFが、じゃあどのセッションを取り上げるかというのを決める。それで、決まったものを優先的に、今度の9月に日本でやる会議で、その決まった方々にやっていただくという発想なんです。

そういう意味で、もともとグローバルのIGFがセッションを取り上げるときには、当然マルチステークホルダーというのは、これはもう大前提になっていますから、そこで上げられるということは、もうまさにIGF精神に沿ったセッションが選ばれているということなので、そのところは特に御心配いただく必要はないのかなというふうに思います。

そういう意味で、日本でそれをさらに新たに募集して、それをIGF精神に基づいて取捨選択するというプロセスは、今年はしなくてもいいんじゃないかという趣旨でございます。

【岸上】 分かりました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほか御質問、御意見ございますでしょうか。

山崎さん、お願いいたします。

【山崎】 河内さんいらっしゃっているんでちょっとお伺いしたいんですけども、MAGのほうで、セッション提案を取りまとめて、審査して、結果が出るのというのはいつ頃になるんでしたっけ。5月19日締切りということは、7月の頭にたしか、次回のMAG会議があるんですよ。だから、それが終わった直後にはもう決まるというスケジュールということで正しいでしょうか。

【河内】 正しいと思います。去年と多分基本的に同じだと思うので。今、ワークショップのセレクションのクライテリアを今、ワーキンググループで話し合っていて、要するにちゃんとマルチステークホルダーになっているかとか、ジェンダーとかリージョンとか、あと中身とかテーマとかそういうところを、どの項目にどれぐらいの比率を置くかというのを、案をつくって議論しているところですので、それに基づいて出てきたワークショップをセレクションして、決まるのは多分、7月の上旬、終わった直後、中旬ぐらいになっちゃうかな、になると思います。

【山崎】 そうしますと、7月中には決まるということで、早くなって8月末にこの国内のほうをやるとしても間に合うということですよ。

【河内】 間に合うと思います。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。他に御質問、御意見ございますでしょうか。もちろん追加のコメント、御質問は継続してということですが、もしよろしければ、ここに今日御参加の方々と、一応この方向で、ボランティアを中心にしながら今年の秋の準備を進めさせていただくということでもよろしいでしょうか。もし御異議とか御懸念あれば御指摘いただきたいんですが、いかがでしょうか。

何か無理やり賛同を得た格好で、あまりIGF的ではなくて恐縮なんですけど、取りあえずこの方向で、それでは今年の9月上旬の日本IGF会議の準備を進めさせていただきたいと思えます。繰り返しになりますけれども、その準備グループの参加はいつでもボランティア、オープンですし、さらに、御意見や軌道修正の御意見、特にあれば、いつでもいただければと思います。

ということで、次、今、河内さんが御出席になられたので、ちょっとアジェンダを戻って、河内さんからのMAGの何かアップデートがあれば、御報告いただければと思います。お願いいたします。

【河内】 すみません。先ほどちょっと申し上げましたが、今、ワーキンググループでいろんなトピックで話し合っていて、特にワークショップのセレクションのクライテリアについては、案が送られてきて今、意見交換をしているとかいうところです。

あと、国連のGlobal Digital Compact (GDC)の、先週木曜日の夜中だったかな、GDCのDeep Diveだったかな、要するにインターネットガバナンスをテーマにした意見交換会みたいのがあって、テーマが幾つかあって、先週はインターネットガバナンスがテーマだったのでぜひ聞きたいと思って、ニューヨーク時間の朝10時から、こっち夜中の11時からだったんですけど、数時間で終わるかなと思ったら、2時までやった後に、その後、休憩挟んで午後、またやりますとか夜中の2時に言われて、ちょっとそれは無理と思って、2時で途中で離脱しましたがけれども、いろんな方がいろんなことを、意見を交換していて、こんなこともやっているんだなというのは、直接MAGではないですけど、MAGのメンバーも結構大勢が参加して聞いていました。

MAG自体のほうは直接、今、会合とかはまだ当面なくて、もうちょっとしたら多分またリモートで会合あるんじゃないかと思いますが、まだ連絡が来てないので、今回は未定ということになっています。あまり進捗が報告できなくて申し訳ない。

それで、全然、先ほどのボランティア、私、どこまでできるか分からないんですけど、8月末だと、もしかしたら当日、参加できないかもしれない。9月だったら大丈夫だと思うので、もしボランティアで私が何かできることがあれば参加させていただければと思います。

以上です。

【加藤】 河内さん、どうもありがとうございます。河内さんへ御質問、皆さんございますでしょうか。よろしゅうございますか。

今、河内さん言われたこと、国連のGlobal Digital Compact、これは結構このところ盛り上がっていますね、いろいろ。恐らく、インターネットガバナンスの大きな方向性を決める議論としては、かなり皆さん集中的に取り上げていて、先ほどのDeep Diveはかなりの人が参加されたと。私も2時までの前に脱落しましたがけれども、いろんな議論があって、さすがに国連のちょっとオーガナイズされた会議とはいえ、やっぱりIGF的な会議だったな……。

【河内】 そうですね。

【加藤】 いろんな人がいろんなことを言っぱなしみたいなのところがありましたけれども、今後さらに注目を浴びて、ここから出てくる何か取りまとめというのが今後、注目されるんじゃないかなというふうに思います。

また、河内さんのほうからも分かることがあれば、NRIのほうでもこれ取り上げて、みんなが参加しようといういろんな国にも声をかけています。

【河内】 そうです。MAGの中でもMAGのメンバーでも、これは重要だからみんなで参加したほうがいいんじゃないかみたいなのがメーリングリストで飛び交っていると思います。

【加藤】 そうですよ。だから、そんなたくさん参加して、何も発言できないし.....。

【河内】 しようと思えばできるんですけどね。

【加藤】 大変な大会議にはなっていますけど。

ということで、よろしいですか。皆さん、御質問ございませんでしょうか。先ほど西潟様が参加されていますが、ちょっと今日は飯田様が御参加いただけないということですが、西潟様のほうからか総務省の方から、何かコメントいただくようなことございますか。

【西潟】 すみません。西潟です。

【加藤】 突然振って申し訳ありません。

【西潟】 いえいえ、すみません。飯田とここでしゃべるべきことの連携はしていなかったもので、すみません。

【加藤】 いや、もう独自にでももちろん結構です。

【西潟】 いやいや、前回との関係でいうと多分、どっちかという今、G7がメインなので、今後、もうそんなに日が遠くなくG7の大臣会合があるんで、飯田はそっちに今は瞬間かかりきりだった部分も多かったのじゃないかと思うんですけど、決してサボっているという意味じゃなくて、私が聞き得る範囲においての大きな動きというのは特にないかなとは思っています。すみません。私は直接何か決まったとかそういうことは聞いてないですね。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。もし日本政府のほうからも何か引き続き、我々にインプットいただくことがあればお願いしたいと思います。

ということで、ずっとアジェンダを見ていただいですけれども、項目としては、これで今回の、今日の会議項目はほぼ全てカバーしたと思いますが、何か忘れたこと、これは議論しておきたいことというのは参加者の皆様で何かございますか。

特にないでしょうか。それであれば、今のところ、12項目目の、本日の議論を受けたTodo確認ですけれども、一応、方向性として御承認いただいたので、9月の会議に向けて、ボランティアの間で少しずつ準備を進めるということかなというふうに思います。

それと、これは全般で、誰かのTodoではないですが、先日の4月14日の報告会のようなものを今後も企画いただくのであれば、ぜひこの活発化チームからの働きかけということで、活発化チームのみんなでも推進していけるのかなというふうに思います。今の「9月の国内IGF会合に向けての準備を進める」は、当面、5人のボランティアプラス河内さん入られて6人と書いていいのかもしれませんが、ボランティアのということではいかがでしょうか。

それでは、もし追加の議題等なければ、次回ですけれども.....。

【岸上】 すみません。よろしいですか。

【加藤】 お願いいたします。

【岸上】 2つお伺いしたいというか、コメントいただけるとありがたいのですが、一つは、先ほどMAGのほうからいろいろと面白そうな議論がDeep Diveの中でされているという御報告いただいたんですけど、W3Cの中で議論しているところから見ても非常に似通ったというか、興味深いタイトルにはなっているので、中を見たいなとも思ったんですけど、これって誰でも参加できるんでしょうか。何か登録する必要があるんでしょうか。

【河内】 GDCのですよね。ホームページ、UNのGDCのホームページ、ウェブサイトがあって、そこに予定も全部、今、これ映してもらっていますね。次は、4月24日のData protectionをテーマにしたDeep Diveということで、この「register here」というところをクリックすると何かフォームが出てきて、そこに登録すれば、それでできます。誰でもできると思います。

【岸上】 そうですか。分かりました。このDigital trust and securityとか、非常にホットなものだと思うので、非常に興味を持ちました。

【河内】 全部聞こうと思うと朝の7時までになるような。

【加藤】 時間が日本に非常に不利なわけです。

【河内】 そうなんですよね。

【岸上】 いや、それはもうW3Cも毎日そうなので。

【加藤】 確かにそうですね。

【岸上】 あんまり、私はしようがないなと思っているんですが。

【加藤】 そうですね。

【岸上】 あともう一つは、セッションの募集が5月何日かまでというのはお伺いしましたけれど、どういうレベルでのセッション提案をすればいいのかというのは、ここで皆さんにお伺いするというよりも、本当は今回の誰かに聞けば早いのかもかもしれませんが、その辺って何かガイドラインといいますか、例題というか、そういうのでありますでしょうか。

【河内】 私からお答えしたほうがいいですか、それとも、もっと詳しい方、たくさんいらっしゃるそう.....。

【加藤】 河内さん、それいっぱい御覧になっているんで言うていただくのがいいかもし

れないです。

【河内】　そうですね。去年しかいっぱい見てないんですけど、今ここに映していただいているのは.....、これ、サブミッションのレビュープロセスだから、こういうプロセスであれしますよというのですね。一応、書かなきゃいけない項目みたいなのが幾つかありまして、主催者は誰で、その人のリージョンはどこだとか、ジェンダーだとか、あとセクターですよ。

【加藤】　これがちょうど出ていますね。five criteriaって今、出ています。

【河内】　そうですね。それをちゃんとそれぞれ書いた上で、あと、その中身のところは、どういう中身でやりたいのかとか、Policy Question(s)というのがあって、それについて、要するに中身のところはその部分ですよ。そこは人によって、割とたくさん書いてる人と、割と短い人とかセッションといろいろあるんですけど、そこをcriteriaとしては、ここは書いてないですね。

【加藤】　いや、Workshop Contentという2つ目の、今、書き方の問題ですね。それが8つのサブテーマのどれに関係して、それをどう掘り下げるかということ詳しく書くということですね。だから、よくあるのは、課題を書いて、こういう課題があって、それをこういうメンバーで議論して、こんなようなことを導きたいみたいなのが、普通ある書き方じゃないですかね。

【河内】　そうですね。あれ、過去のやつって探したらどこかに.....。

【加藤】　全部出ています。

【河内】　ありますよね。ですよ。

【加藤】　何百ものセッションが.....。

【河内】　そうですね。何百もあると思うんですけど、参考にさせていただいたらいいんじゃないか。ちなみに、そのそれぞれのcriteria、要するに今そこに出ている、Proposed TopicとWorkshop ContentとPolicy Question(s)とEngagement & Hybrid StrategyとDiversity、この比率をどういうふうにするかというのを今MAGで検討中ですけども、今、案で出ているのは、ほぼほぼ同じくらい、やっぱりコンテンツが一番重要、ちょっと多めの比率になっているかなという感じですけど、ちょっとこれ、まだ確定じゃないんであんまりまだ言えないですけども。

【岸上】　分かりました。ありがとうございます。すごく簡単に言うと、普通の国際会議とは違って、こういうマルチステークホルダーのコントリビューションといいますか、この5つのクライテリアへのコントリビューションがどのくらいあるかというのが、割と判断基準としては大きいというふうに理解したんですけど、そういう感覚でよろしいでしょ

うか。

【河内】　そうですね。去年、評価したときには、まずDiversity、マルチステークホルダーかどうかとか、要するにリージョンが、トピックによってはどうしても偏ったリージョンの人たちばかりがスピーカーだったりするのは仕方ないところもあるかもしれないんですけど、ジェンダーが男ばかりじゃないかとかということにプラスして、あとは中身という感じだと思います。

【岸上】　分かりました。ありがとうございます。

【加藤】　ありがとうございます。ほか何か、追加で御質問とか、議題でも結構ですけども、ございますか。

じゃあ、もしなければ、次回はまた4週間後ということで、5月15日、同じく5時からということでお集まりいただきたいと思います。

それじゃ、これでクローズにしますか。今日は今までになく早く終われるということで、次回までにでも何か特に、9月の準備についてとか、いろいろございましたら御連絡させていただきます。

それから、その間でも、G7でお忙しい中ですが、もし政府関係の方でも何か進展等があればお願いしたいと思います。5月15日でやろうと言った一つは、5月19日がセッション募集の締切りということもありますので、この15日の時点でセッションの応募状況とかその辺の意見交換等もできればと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

今日は本当にお集まりいただきましてありがとうございました。次回、よろしく願いいたします。

【岸上】　ありがとうございます。このGoogle Docsは、どこかのURLを見れば分かるのでしょうか。

【山崎】　メーリングリストに先ほどリンクを送りましたので、それをクリックしていただけると、御覧いただいて、コメントも残せるはずですよ。

【岸上】　そのメーリングリストにはどうやって入るんだろう。

【山崎】　岸上さん、過去にこの会議に出ていらっしゃるので、メーリングリストは入りたくないと思えばいい限りは、もう既にお入りのはずですよ。

【岸上】　そうですか。すみません。ちゃんと理解.....。

【山崎】　ちょっと確認して、入ってなかったら御招待します。

【岸上】　分かりました。ありがとうございます。

【加藤】 では、どうも皆さん、ありがとうございました。